5　指導過程

段階	学習内容・活動	時間	形態	○教師の支援・留意点　評価
課題把握	1　北海道産のもので料理した２種類の海鮮丼のイラストを示し、とれる魚の種類が違うことを確認する。 2　本時の学習課題を確認する。 なぜ北海道でとれる魚が変わってきたのか。	5	一斉	○　年代によって魚の種類の違いが顕著にわかる海鮮丼のイラストを示すことで、その違いに気付かせ、課題意識を高めさせる。
課題追究	3　２種類の海鮮丼で使われている魚の種類が、なぜ変化したのか、その理由を予想する。 ⑴　北海道でとれる魚の種類が変化した理由を予想し、ワークシートに記入する。 ①　海流 ②　とる漁業から育てる漁業 ③　漁場 ④　漁獲量 ⑤　輸入量 ⑥　就業者人口 ⑵　自分が予想したことを根拠にして班の中で意見を交換し、魚の種類が変化した理由をまとめる。 4　各班でまとめた結果をもとにゲストティーチャーに確認し、とれる魚の種類が変化した理由をワークシートにまとめる。	２０ １５	個別 小集団 一斉	○　北海道でとれる魚の種類が変化した理由について、既習事項を参考に予想させる。 ○　小集団の代表に話し合った結論を発表させ、比較させる。 ○　質疑応答を受けた内容を踏まえて最終的な理由を再確認させる。 【思考・判断・表現】 Ｂ：北海道の漁業の特色を歴史的な観点から説明することができている。 （ワークシート・観察） ☆：キーワードとなる語句を示して、それを参考に記述するように助言する。
まとめ	5　本時のまとめをする。 ⑴　ゲストティーチャーの講話に耳を傾ける。 ⑵　次時の予告を聞く。	１０	一斉 一斉	○　北洋の漁での体験談を聞かせ、北方領土や排他的経済水域などについて補足してもらい、より広い視点から本時の学習内容を理解させる。 ○　これまでの学習を踏まえて、北海道のキャッチコピーを作るために必要なキーワードを集めておくように補足する。